

児童の持つ特徴（運動能力の高低や自信の有無）が体育科授業の運動学習に及ぼす影響 ～小学校の体育科授業におけるインクルーシブ教育の実現を目指して～

吉村 茜（早稲田大学 教育・総合科学学術院 講師）

【背景】近年、インクルーシブ教育の推進が目指されるわが国の教育現場において、子どもの多様性を包摂し学習機会の平等性を担保することは重要である。本研究は、初等体育科におけるインクルーシブ教育の実現を目指すファーストステップとして、以下2点を実施した。

研究1

【目的】現職小学校教員を対象に体育科授業におけるインクルーシブ教育の実態についてアンケート調査すること。

【仮説】インクルーシブ教育を推進すべく取り組みはある程度実践されているものの、その実践の程度は教員のバックグラウンドにより異なり、教員間で差がある。

【方法】対象は、アンケート回答時に学級担任制にて普通学級の担任をする現職小学校教員とした。対象者 86 名のうち 84 名の回答を有効回答とした（有効回答率：97.6%）。調査項目は、(1)体育科授業及び学校生活全般で実践されている教育的工夫の具体的内容、(2)体育科授業で児童の多様なニーズに対応する上での課題、(3)教員の意欲及び要望の3点とし、Google フォームによるオンラインにて回答を求めた。教育的工夫については、「学習目標・内容の調整」、「評価規準の調整」、「学習活動の量・時間の調整」、「教材・教具・場の工夫」、「Information and Communication Technology (ICT)・補助用具の活用」、「コミュニケーションの工夫」、「児童全体へ多様性に対する理解促進」、以上7つの選択肢を設け、複数選択で回答するよう求めた。

【結果・今後の課題】本研究より、体育科授業における教育的工夫として、回答者の約70%が「教材・教具・場の工夫」を選択した。また、保健体育科の教員免許保有者やインクルーシブ教育に関する研修参加経験を有する者は、そうでない者と比べてより多くの教育的工夫を施している可能性が示された。一方で、「評価規準の工夫」を選択した者は全体の約30%に留まり、「児童全体へ多様性に対する理解促進」を選択した者は約50%に留まったことから、これらについては課題があるものと考えられた。他方で、ほぼ全ての回答者は体育科授業において児童の多様なニーズに対応することやそれに向けて学びを深めていくことに対して意欲を示したものの、障壁となっていることとして約70%が「多忙により余裕がない」を選択した。これらのことから、教員の多忙化を改善するとともに、研修や勉強会などを実施することや、専科教員（保健体育科の教員免許保有者）などによる実践の共有を促すことの必要性が示唆された。

研究2

【目的】児童の特徴（運動能力の高低・運動有能感の高低）が体育科授業の学習に及ぼす影響について測定・評価すること。

【仮説】運動能力や運動有能感の低い児童は、そうでない児童と比べて体育科授業における身体活動量、学習従事の頻度、主観的授業成果が少ない／低い。

【方法】2023年11月～12月にかけて茨城県で実施された小学校のボール運動の授業（45分間）にて、6年生78名（男子43名、女子35名）を対象とした。当該年度に実施された新体力テスト及び運動有能感に関するアンケートの結果に基づき、「運動能力及び運動有能感が高い群（高高）」、「運動能力は高いが運動有能感は低い群（高低）」、「運動能力は低いが運動有能感が高い群（低高）」、「運動能力及び運動有能感が低い群（低低）」の4群に児童を分類した。測定項目は、(1)授業開始から終了までの身体活動量、(2)学習従事及び非従事の頻度、(3)主観的授業成果、以上3点とした。身体活動量については、GPS装置を装着したウェアを児童に着用させることで測定した。学習従事及び非従事の頻度については、動画分析と観察者によるリアルタイムでの分析の両方によって記録し評価した。主観的授業成果については、授業終了後にGoogle フォームを通じて児童にアンケートを配布し、全12項目（4因子各3項目）に対して3段階（1点～3点）で回答を求めた後、因子ごとに平均点を算出した。点数が高いほど授業成果が高いものとして評価した。Kruskal-Wallis 検定とMann-Whitney のU検定を用い、各測定項目について群間比較した（統計的有意水準：危険率5%）。

【結果・今後の課題】身体活動量（特に、総移動距離、歩数、消費カロリー）、学習従事の頻度（特に、支援的な従事）、主観的授業成果で有意な群間差を認め、「低低」は他の群と比較して有意に低値を示した。本研究より、児童の運動能力や運動有能感の高低は体育科授業における身体活動量、学習従事の頻度、主観的授業成果に影響を与えることが示され、児童の特徴に応じた教育的工夫の必要性が示唆された。